

# あすか野小だより NO.11

☆☆☆ 一人ひとりが輝く学校 ☆☆☆

生駒市立あすか野小学校  
学校だより 2026.2.11

## 1年のまとめを

節分を過ぎ、立春を迎えて暦の上では春が始まりました。2月5日の「笑顔の日(にこにこの語呂合わせ)」や、翌6日に開幕したミラノ・コルティナ冬季五輪など、明るい話題に心が弾む季節です。それと同時に、今の学年の「ゴール」もいよいよ見えてきました。この1年間のまとめをする、とても大切な時期です。全校朝会では、子どもたちが次の学年や中学校へ自信を持って進めるよう、次の3つのことを伝えました。**1つ目は「学びの定着」**です。この1年で習ったことを振り返り、しっかりと自分の力(自信)にしましょう。**2つ目は「小さな挑戦」**です。苦手なことにも「あと少しだけ」向き合ってみましょう。「できた」が一つ増えるたび、心はぐんと強くなります。**3つ目は「心の準備」**です。次の学年の自分を想像し、今の生活を見直してみましょう。ご家庭でも、温かい励ましの声をかけていただければ幸いです。

## 雅楽鑑賞&ゴスペル鑑賞



1月28日、6年生を対象に雅楽鑑賞が行われました。子どもたちは、初めて聴く音色に耳を傾け、「日本のしぶみや重みのある音が幻想的だった。」「箏(ひちりき)の音が力強かった。」「千年以上も形を変えずに残っていると知って驚いた」などの感想を述べていました。2月5日には、5年生を対象に、ゴスペルIKOMAの皆さんをお招きしました。「アメージング・グレイス」を作詞したジョン・ニュートンのお話を聞いた後、迫力ある歌声を聴かせていただきました。途中、ゴスペルIKOMAさんとの掛け合いで、一緒に歌も歌いました。自然と手拍子する5年生の素直な反応やノリの良さに、講師の方々も驚き、大変喜ばれていました。



## からだは自分だけの大切なもの

1月13日に、奈良県の助産師さんをお招きして、1年生が「たいせつなからだいのち」について学習しました。赤ちゃんがお母さんのお腹の中で育つ様子を動画を視聴した後、様々な体験をさせていただきました。子どもたちからは、「赤ちゃんが手を使わずに出てくるのがすごい。(子宮ぐり体験)」「にんぷジャケットをついたら、めちゃくちゃおむて、あんまり歩けなかったです。(妊婦体験)」「赤ちゃんをだっこしてみたら、『わっおもい。』って思いました。(赤ちゃん人形体験)」などの驚きと感動の声があがりました。



## 心音を聴かせてもらったよ

1月27日、3名の獣医師さんをお招きし、2年生を対象に、うさぎとのふれあいを通じた特別授業が行われました。聴診器をそっとあてて、うさぎの鼓動を感じる子どもたち。「トトトツ」と刻まれる、人間よりもずっと早いうさぎの心音に、目を輝かせて驚いていました。獲物を狙う瞬間に血流を速めて備えるという体の仕組みや、「うんちが出るのは、生きている証拠であり、元気の源なんだよ」というお話に、どの子も真剣に耳を傾けていました。実は、県内各地で30年前から続くこの取り組み、**始まりはこの「あすか野小学校」**だったことをご存じでしょうか。私も知りませんでした。当時、増えすぎてしまったうさぎの飼育に悩んだ1人の児童(飼育委員会)が、獣医師さんへ一通の手紙を送ったことがきっかけだったと聞きました。手紙を受け取った獣医師さんによると、その勇気ある行動が、県内全域に広がる活動へと発展したとのこと。1人の「思い」が、30年経った今も子どもたちの学びを支えている。その歴史を感じるとともに、丁寧なプレゼンで子どもたちからの事前の質問に答えてくださった獣医師の皆様、心より感謝申し上げます。

